

**がん治療と仕事の  
両立支援セミナー**

がんと診断されたら、  
暮らしは？仕事は？雇用は？

# **働き続けるためにできること**

## **報告書**

NPO法人キャンサーリボンス

2017年8月1日

# 実施概要

本セミナーは、がん治療と仕事の両立に関する理解促進を目的として、MSD株式会社、NPO法人キャンサーリボンズ、大阪府、大阪府立中之島図書館、大阪府立中央図書館が共同で企画・実施しました。

- 名 称   がん治療と仕事の両立支援セミナー  
「がんと診断されたら、暮らしは？仕事は？雇用は？働き続けるためにできること」
- 日 時   2017年7月8日(土) 14:00～17:00(受付開始 /13:30)
- 会 場   大阪府立中之島図書館 別館2階   (大阪市北区中之島1-2-10)

■参加者数   【109名】

<参加者内訳>

一般(患者さん・ご家族、企業(後援団体含む)など)	90名
講師	6名
メディア1社(MBS毎日放送)	3名
主催者 (MSD株式会社様 4名、大阪府 2名、大阪府立中央図書館 1名、 NPO 4名)	10名

今回、約120名の方からご応募をいただき、97名を受け付けました。当日の歩留りは9割を超え、本テーマへの関心の高さが伺えました。

なお、大阪府の誘致によりMBS毎日放送の取材が入り、当日ニュース(18:45～19:00)にて東山先生と阿南さんの講演の様子が放映されました。

- 主 催   NPO法人キャンサーリボンズ、大阪府、大阪府立中之島図書館、大阪府立中央図書館、MSD株式会社
- 後 援   大阪商工会議所、大阪府商工会連合会、大阪府中小企業団体中央会、公益財団法人大阪産業振興機構、公益社団法人大阪府看護協会、大阪府社会保険労務士会
- 協 力   MOBIO(ものづくりビジネスセンター大阪)

# 実施概要

(一部敬称略)

## <プログラム>

■開会挨拶 および 主催者挨拶 NPO法人キャンサーリボンズ委員、  
兵庫医療大学看護学部准教授 がん看護専門看護師 田中 登美(司会)

## ■主催者挨拶

大阪府健康医療部保健医療室健康づくり課がん対策グループ 課長補佐 里村征紀  
MSD株式会社 医薬政策部門公共・産業政策グループ 部長 尾崎昭夫

開会挨拶に続き、大阪府健康医療部保健医療室健康づくり課がん対策グループ課長補佐 里村征紀さん、MSD株式会社 医薬政策部門 公共・産業政策グループ部長 尾崎昭夫さんよりセミナー主催者としてご挨拶いただきました。



## 【医師による講演】

### ■がん治療と仕事の両立を可能にする、がん医療最新事情

(地独)大阪府立病院機構大阪国際がんセンター副院長 東山 聖彦

がんの基礎知識と化学療法を中心とした治療法、がん治療における就労支援の必要性についてご講演くださいました。

がん医療の進歩により治療成績が向上し生存率がアップ、外来通院しながら長期間の化学療法や放射線治療を受けながら仕事に就く患者さんが増加している。

患者さんごとに、がんの種類、進行度、病状による治療内容は異なり、副作用も様々。がん患者さんの病状・治療状況、社会的背景等個別性を理解した上で、両立支援を行うことが重要とのことでした。



## 【体験者による講演】

### ■体験談:がんのその後の人生設計

中川企画建設株式会社

厚生労働省委託事業 がん対策推進企業アクションアドバイザーボードメンバー 阿南 里恵

がんと診断された後の離職や就職について、ご自身の反省点を交えながら体験談をお話いただきました。

ご自身の復職の際、主治医だけでなくキャリアコンサルタントにも相談。出来ることと出来ないことを整理した上で、広い視野をもって自分の本質を活かす仕事にチャレンジできた等、具体的な両立のヒントをお話いただきました。病気の開示と困難の想定が、両立をスムーズにするとのことでした。



## 【社会保険労務士による講演】

### ■がん治療と仕事の両立に関する施策と、知っておきたい制度

関孝子社会保険労務士事務所 代表 特定社会保険労務士 関 孝子

仕事と治療の両立に関する施策や、社会保障制度を中心にお話しいただきました。

がん治療は個別性が高く、勤務、休暇、経済面など就労上の困りごとも様々、通院治療でも入院の場合でも、職場の理解を得るためには患者自身が自分の状況を正確に把握し、自らが職場に伝えることが必要とのことでした。

休業中に受給可能な社会保障制度‘疾病手当金’の注意点として、連続する3日を含み4日以上仕事につけない状況‘待期3日間’の支給条件について、休職前から注意する等、具体的にご説明いただきました。



## 【看護師による講演】

### ■自分にあった働き方、生き方を考える

NPO法人がんリポジズ委員、

一般財団法人大阪府警察協会 警察病院看護師長 がん化学療法看護認定看護師  
有働 みどり

化学療法における就労支援の事例を中心に、NPO作成の両立支援ツール「がんと働く」リワークノート（参加者全員に配布）を使いながら、治療中の両立のためのポイントについてお話しいただきました。

患者さん自身が病気や治療内容を正しく理解した上で、治療スケジュールや副作用管理をしながら仕事との両立を考えることが大事。復職に際しては、職場事情を医療者に伝え、職場には病気の情報を整理して伝えることがポイント。復職のステージごとに生じる悩みをリワークノートで整理して、両立に活用していただけたら、と紹介しました。



## 【図書館司書による講演】

### ■必要な情報を得るための図書館活用法

大阪府立中央図書館 調査相談課 徳森 耕太郎

大阪府立中之島図書館の機能（ビジネス支援サービス、大阪資料・古典籍に集約）の他、府立図書館の活用法についてご紹介いただきました。

府立中央図書館所蔵の医学書の中には、がんに関する書籍（病気、治療、薬、医学用語、闘病記など）の他、医中誌WebやJDream3等の専門的商用データベースもある。情報探しのお手伝い・リファレンスサービスも活用してほしい、とのことでした。



# 実施概要（「質問タイム」での、質疑応答）

会場からの質問に答える「質問タイム」では、質問内容に合わせ各講師にご回答いただきました。

## <主な質問内容と回答>

### ■東山医師への質問

Q1. 主治医に、仕事との両立について相談するのは勇気がいる。ポイントを絞って相談するとしたら、何をどんな風に話したらよいか？

A1. 復職の希望は、治療のタイミングに関わらず早めに伝えてほしい。具体的な復職時期は、治療が一段落してから、治療状況を見ながらお伝えしている。

Q2. 仕事と両立しやすい治療法、薬を選ぶことはできるか？

A2. 医療者としては、まずは治療効果が出るのが一番だと考えている。医師から治療の提案を受け、患者さんやご家族がその中から選ぶ。標準的な治療は、内容がある程度決まっている。

Q3. 放射線治療をしながら働いている人も多いか？

A3. 放射線治療は、現在ほとんど外来。照射の期間も短くなっている。時間も外来で2時間くらいなので仕事と両立は可能。

Q4. 検査データ上予後良好であると、主治医が、後遺症や精神不安なことをあまり理解してくれない時は、それをどう伝えたり、理解してもらえるようにしたらよいか。（長期抗がん剤治療後の関節痛やにぶい神経痛など）

A4. がんの治療は多職種で取り組んでいる。主治医に聞いてもらえない場合は、看護外来、がん相談支援センターなどでも相談してほしい。他の立場の方に相談した場合でも、医師に相談内容が伝えられる。がん医療において、医師は科学的な立場でのリーダーだが、多職種で患者さんの治療に取り組んでいる。いろいろな立場の方が連携して、患者さんの治療やケアにあたっている。

（司会・田中先生の補足）

治療は、患者さんと医師との点でつながるイメージを持っている方もいるかもしれないが、先生のご説明通り、病院の治療はチームで医療にあたっている。患者さんの治療についての話し合いをすることも多い。

直接主治医にお話しする以外にも、いろいろな職種の方に相談してもらえれば、解決しやすいことも多い。

### 【体験者 阿南さんへの質問】

Q5. 阿南さんが相談されてきたキャリアカウンセラーとは、どこで出会った方か？

A5. キャリアカウンセラーは、企業内にいる場合もあるしハローワークにもいる。私が出会った方は、偶然がんサバイバーで、キャリアカウンセラーをしている方。今、その方が活動を広げるために研修を受けているところ、今後、相談体制が整うと思う。

Q6. 職場の部下が治療をしながら仕事をしている。他の社員はあまりそのことを知らず、休みが多いことに對して不満もでており、上司としてどのようにしたらよいか、何かヒントがあれば教えてほしい。

A6. 職場のメンバーに伝えた方が、本人は働きやすいと思う。上司として難しい面もあると思うが、オープンにすることは可能かどうか、本人とディスカッションをする場は必要だと思う。

# 実施概要（「質問タイム」での、質疑応答）

## ■ 関社会保険労務士への質問

Q7. 社労士の先生には、誰でも個人で相談できるか？がん患者が相談した場合、社労士の先生に何回くらい面談することが多いか？

A7. 相談先は、大阪府社会保険労務士会。今は直接相談は受けていないので、通っている病院を通じて相談してほしい。回数は相談内容によって、1回で終わる場合もあるし、複数回になることもある。

Q8. お金が無くなった時は、どのような支援が受けられるか？

A8. 傷病手当金の制度がある。本当にお金がない場合は、福祉の窓口を訪ねてほしい。

（体験者・阿南さんの補足）

病院にはソーシャルワーカーがいるので、そちらで相談する人は多い。

また、納税も収入が無いと大変、年金や住民税の免除も可能。但し、税金の免除は役所に自分で出向いて初めて教えてもらえることなので知っておいた方がよい。

また、生命保険に加入していれば、診断給付金も活用できる。

（司会・田中先生の補足）

がん診療連携拠点病院には、がん相談支援センターが必ずある。どなたでも相談できるので、まずはそちらを訪ねてみてほしい。

## ■ 有働看護師への質問

Q9. 家族は、復職についてどのようなことに配慮すればよいか？

A9. 基本的には、しっかりと家族でお話しをしていただいた上で支援をする。復職をする前後で支援する内容も違って来るが、家族で話をしてから医療者にも相談してほしい。患者さんは、時には弱音も言いたくなるので、受け止めてあげることも大事。

（司会・田中先生の補足）

患者さん一人で、会社や病院との交渉するのは大変。そばにいるご家族がノートをつけたり、化学療養室に付き添って普段の患者さんの姿を伝えることも相談が深まる。患者さんと一緒に、両立支援を手伝ってほしい。

## ■ 司書 徳森さんへの質問

Q10. 医療に強い司書さんは、図書館にいるか？

A10. 分野ごとに司書がいる。社会科学・自然科学に特化した司書が、医療情報を担当している。資料を駆使して希望する情報を提供している。

病気のについての相談など、専門的なことは主治医に聞いて欲しい、